

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491300212		
法人名	社会福祉法人 こもはら福祉会		
事業所名	グループホーム 新		
所在地	三重県名張市新田2940番地-6		
自己評価作成日	平成 28年 2月 10日	評価結果市町提出日	平成28年4月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigvosvoCd=2491300212-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28年 3月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者とその家族一人ひとりの思いを大切に、心身の健康状態が良好に保てるよう日常的に良く関わり、その人らしさを尊重した支援をしている。家族には健康状態の変化や日々の暮らしの中での出来事を細目に報告し信頼関係を築けるようにしている。また建物は自然の光がたくさん取り込める作りであり天井も高いために、明るく開放的なリビングとなっている。開閉式ドームも有しておりそこの行事も実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に母体法人が運営する特別養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービスセンター、障害者支援施設等に隣接した、一つの建物に小規模多機能ホームが併設された事業所である。『人との出会い、ふれあいのなかで、たくさんの笑顔、少しの悲しみ、小さな怒りを大切に』を理念として、管理者・職員が家庭的な雰囲気の中、いつも笑顔で利用者に接している活気のある明るい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着事業を意識し、事業所の見やすい所に掲示を行い、職員が理念を共有している。	事業所理念を事務所内に掲示してケア会議や職員会議で常に再確認し、管理者・職員が理念を共有しながら利用者の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での催し物に参加をしたり、地域に出ていく機会を大切に外出機会を持っている。また併設の小規模多機能利用者との交流をもっており、地域住民も訪れてくれることもある。	地域市民センター祭等の地域の行事に参加している。散歩時の地域の方との挨拶や、近隣住民から野菜や花等の差し入れがある。また、地域住民の認知症サポーター研修で、事業所職員が講師となり交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けた活動は少なく今後の課題である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況やサービス内容等の報告を行っている。意見や情報交換はできているが、サービスの向上につながる意見は出されていない。	2ヶ月毎に、利用者家族・民生委員・市高齢障害支援室・地域包括支援センター・桔梗が丘まちの保健室職員が出席して運営推進会議を開催している。会議で話し合われた意見や提案等を事業所の運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者が運営推進会議には毎回出席しており情報交換を行い、必要時には文書等で連絡をとっている。	運営推進会議時や地域包括支援センター訪問時等に、連絡や情報交換を行っている。また、市介護相談員を受け入れ、情報交換を実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修やケア会議を通じて正しく理解し身体拘束をしないケアを実践している。	法人が3ヶ月毎に開催している『事故防止・身体拘束委員会』に、管理者が参加している。身体拘束及び言葉による拘束について法人内研修を行い、身体拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で三か月に一度、事故防止・身体拘束廃止委員会を実施しており、リーダーが参加し会議の内容を職員に伝達している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等の利用調整を関係機関と協力し行っている。必要時には後見人と意見交換を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書をもとに、理解しやすいように説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段からの連絡を密に行い。外部機関情報を運営規定に明記し事業所内にも掲示をしている。	運営推進会議や家族の面会時、電話連絡時等に家族の意見や要望を聞いて事業所の運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員の意見に耳を傾け、個人面談や会議で職員が意見を言える機会を設けている。	管理者は日々のケアにおいて職員に声掛けをして、職員の意見や要望が気軽に言えるように配慮している。年1回の個人面談で、職員の意見や要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度や法人内異動希望調査、研修の充実、互親会による旅行等により働きやすくやりがいのある職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修参加を積極的に促し、資格取得に向けての啓発を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所と意見交換するプロジェクトを立ち上げ、他の事業所職員と交流を図っている。また市主催の多職種連携会議やさまざまな研修に参加することで勉強や情報を集め、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人と会い直接話を聞くことによりニーズの把握に努め、ひとつひとつ丁寧に答えることで安心できるように支援をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に話を聞くことで家族としての思いや考えを理解することに努め、関係作りをしながらニーズの把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前相談時に何を求め何が必要かを的確に判断し、事業所としてできる事を伝え、他の事業所情報も開示している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活することを念頭におき、一方的な関係にならないようお互いを大切にする支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所ができること家族の支援が必要な時、さまざまな場面で本人に一番適切な支援ができるように日頃から連絡を密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の生活歴聞き取り、行きつけの美容院や馴染みのカラオケ店へ行けるように支援している。また面会が行いやすい雰囲気作りをしている。	利用者の生活歴を聞いて、以前からの知り合いの家を訪問したり、実家を見に行ったり、馴染みのカラオケ店や行きつけの美容院へ行けるように支援している。また、利用者との会話の中で、思い出の場所や馴染みの店を聞き出すようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれが互いに認め合える関係を作れるように席の配慮や言動に注意をはらいながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要な方には家族に電話や手紙にて連絡を取っている。また本人の様子を伺いに行くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中から、以前の生活歴等を聞き取りることにより本人の思いを引き出し、本人の意思を尊重した支援をしている。	日常のケアを通して利用者の思いや意向の把握に努めている。把握が困難な利用者は、フェースシートや家族の意見・情報を参考に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、以前の事業所からの情報を聞き取りこれまでの生活スタイルの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床・就寝の時間もそれぞれであり、一人一人の生活スタイルで過ごされている。身体機能の変化がある場合は支援の内容を変更し適切に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、担当職員等と情報を共有し、身体機能や生活状況等に合わせて現状に即した介護計画を作成している。	計画作成者が担当職員等の意見を聞いて、ケア会議でモニタリングを実施し、3ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や連絡ノートでの情報共有に努め、パソコンにて個別記録を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な支援を適切に判断しスピード感をもって対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全面に配慮しながら本人のできることを意識して支援をしている。地域ボランティアで園芸や音楽演奏がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を大切に、必要なかたには通院の同行や状況報告を行い医療との連携を図り安心した生活が送れるように支援している。	6名が従来からのかかりつけ医、3名が協力医の受診を受けている。家族の協力により受診しているが、家族の協力が得られない場合は事業所で対応し、受診結果を家族に報告をしている。法人の看護師が週4回バイタルチェックをしてかかりつけ医に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適宜看護師には利用者の状況報告を行っており、必要時は看護師が適切な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	多職種連携会議や普段の受診介助といった場面にて医療従事者との関係作りに努めており、入退院の情報交換も密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の支援は行っていないが、マニュアルは整備している。入所時の早い段階での話は懸念される方もいるため実施していない。	重度化や終末期への支援についてのマニュアルは整備されているが、かかりつけ医との連携や事業所の医療体制に課題があり、事業所としての検討課題となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルの確認や、救急救命講習の受講を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの周知を行い、消防署立会いのもと年2回の避難訓練を実施している。緊急時には隣接施設からの応援態勢を整えている。	併設の小規模多機能ホームと合同で年2回消防署の協力により、火災(昼・夜間)を想定した避難訓練を実施している。緊急時の隣接施設からの応援体制や、水・食料等の備蓄については整備されている。	いつ起こるかかわからない地震や火災に備え、申し送り時や職員会議時に机上訓練を実施することと、緊急時の職員の役割分担を明確にしておく事が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉使いを心掛け、他者が聴いても不快感のないように、研修や会議を通じて意識を統一している。また、気持ちのある言葉かけを大切にしている。	利用者への声掛けや言葉遣いに気を付けている。トイレ誘導時や居室訪問時の声掛け、呼称等について職員間で常に話し合い意思統一をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択権はあくまでも利用者であることを念頭に入れ支援している。利用者が自分の意思を表現しやすいように普段からの支援を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりが自分の時間や空間をもてるように配慮し、一日の過ごし方も本人の意思を尊重して対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理容、馴染みの美容院への支援を行っている。家族には外出用の服やお気に入りの服を持参してもらうように依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、準備や片付けを手伝ってもらうことで食事を意識してもらい、また一人一人の好みや体調に配慮しながら食事提供を行っている。	週5日、給食センターが調理した料理を利用者と準備し、職員と会話をしながら食事をしている。週2日は職員が調理し、惣菜等を追加して食事を楽しんでいる。また、職員と一緒に料理を作りテラスで食事を食べる時もある。年4回、外出に出掛けしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事を提供しており、水分や食事がしっかりと取れるように一人一人に合った食事内容や水分調整を行い、その日の体調も考慮して支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け・支援を行い、必要な方にはご家族の同意のもと訪問歯科治療を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを共有し、声かけや必要な介助を行っている。全利用者がトイレにて排泄を行っている。	排泄チェック表を活用して、利用者への声掛けや介助を行い出来るだけ自分でトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の声掛けだけでなくゼリー状のもの、甘味があればたくさん摂取できる方、それぞれの好みに合わせて支援している。運動は定期的に体操やレクリエーションを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決めておらず、その日の体調等を考慮して決めている。入浴時間はある程度決まっているがその時の希望や状況に合わせて対応できるときは臨機応変に対応している。	利用者の希望や体調に合わせて、週に2回から3回午後に入浴している。体調の悪い利用者への足浴のみの支援や入浴を拒否する利用者については、再度声掛けをする等工夫をしながら入浴の支援をしている。入浴剤の使用や季節感のあるゆず湯や菖蒲湯で入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの生活習慣を大事にし、夜間以外でも自室やソファで休めるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの担当者が服薬の管理を行い、適切な支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの経験や生活歴を把握しそれまでの生活スタイルを継続できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日には散歩を行い、季節を感じてもらえるように四季に合わせて外出する機会を作っている。また馴染みの美容院やカラオケ店に行くことで以前からの関わりを大切にしている。	気候のよい時期は事業所の周りを散歩している。季節の花見や買い物、家族が同行して外食に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額な金額ではなく少額な金銭のみもってもらい、買い物等の外出時に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時や希望時に家族と話ができるように支援を行っている。馴染みの人や店にも電話や連絡が取れるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の光や音がたくさん取り込める建物であり、四季を感じることは多く、リビングには観葉植物や季節の花を常に飾っている。音楽を流すことでゆったりとした時間がすごせるようにしている。	事業所中央に開閉式ドーム屋根のテラスがあり、開放的でとても明るい事業所である。採光も良く食堂兼居間はとて広く、ソファで音楽を聞いたり、テレビを見たりしてゆっくり寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが座りやすい、移動しやすい環境作りに努め、思い思いに過ごすことができるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの馴染みの家具を持参してもらうことで、自宅に近い環境を作りを行っている。仏壇を持ち込まれる方もいる。	各居室はエアコン、ベット、椅子が設置してある。位牌や遺影、使い慣れたタンスや椅子を持ち込んでいる利用者がいる。掃除が行き届いており整理整頓されている。各居室と廊下に絵画が飾られており、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースは広く、段差等もなく配慮できた作りとなっている。全体も見やすい作りとなっており「わかること」も理解しやすい。		